

令和2年度 北海道小学校長会地区活性化支援授業 【実践事例レポート】

- 1 報告地区 : 小樽市
- 2 事例報告学校名 : 小樽市立張碓小学校
- 3 報告者職・氏名 : 校長・加藤 達子
- 4 キーワード : 地域の環境・教育資源を生かした教育実践

1 はじめに

小樽市立張碓小学校は鯨漁で栄えた明治9年に張碓教育所として創始、現在開校144年を迎える小樽でも歴史の古い学校である。小樽中心部より離れているが国道5号線沿いにあり、前に青い海、後ろには緑豊かな山々をかかえ、自然環境に大変恵まれた中にある。小樽市の鳥である”アオバト”の営巣地も近く、校舎周辺に1年中野鳥の姿が見られ、シカ、テンなど野生動物が姿を現すこともある。校舎は平成2年度に全面改築され、山小屋を思わせる、木の温もりと天窓による自然光を豊富に取り入れたオープンシステム方式による学校である。



学校規模は、単学級2・複式学級2・特別支援学級1の併せて5学級、全校児童36名という小規模校である。児童一人一人に寄り添い、個々のよさを生かした教育活動を推進してきている。

2 地域の環境や教育資源を生かした実践の様子

本校では「地域の学校」として保護者のみならず、地域の方々も本校OB・OGとして物心両面から支援や協力をいただける中、総合的な学習の時間を中心に、地域を生かした環境教育やふるさと教育、キャリア教育等に取り組んでいる。

総合的な学習の時間（あおぼと学習）では、それぞれがふるさと張碓について疑問に思ったこと・知りたいことなどをテーマに、グループで校外での調べ学習、学芸員の講話や地域の方々に自然環境や歴史についてインタビューを行うなど、積極的に地域資源を活用した活動を行っている。



かまぼこ工場にて（創業が張碓）

(1) 地域の施設を通じた活動

本校は小樽市中心部から距離があり、様々な施設から遠いが、1～3年生は主としてスクールバスを用いて、隣接地域の桂岡・銭函地区にある大きなスーパー、かまぼこ工場等に見学に行き、様々な仕事の様子やそこで働く人々の思いや工夫などについて学習している。

また、5年生による高等聾学校の訪問・聾学校教諭による出前授業と、交流が続いている。



(2) 地域の自然環境を生かした活動（あおぼと学習）

張碓は自然に囲まれている地域である。本校も周りに森や林、眼下に海があり、1年を通して地域の自然を題材に様々な活動を行うことができる。

中でも、総合的な学習の時間に、3年生以上の児童のグループで、張碓をテーマにした調べ学習を進めてきている。児童が張碓で生活する中で気付いたこと・不思議に思ったことなどをテーマにして校外活動を行い、分からないことを博物館の学芸員や地域の方々にインタビューするなどして、自分なりの考えをもってまとめている。

これまで選択されたテーマは、「旧道や旧トンネル」「地域のゴミの問題」、「張碓に自生する植物・外来種」「地球温暖化の影響」、「神社など張碓の歴史的建造物」など地域の自然・環境・歴史が主である。毎年、調べてまとめたものをバインダーに綴り、次のテーマ作りの際に活用している。また、あおぼと発表会では、お互いに地域について深く学ぶよい機会になっている。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染予防のため取材や校外活動などを十分できなかったため、その代わりにZOOMでインタビュー活動を行うなどして情報を収集した。



学芸員によるお話（昨年度）



ZOOMでのインタビュー活動



あおぼと学習バインダー

(3) ふるさとを知る活動

張碓地区にある本校は、小樽中心部より離れていて児童の生活圏はどちらかというと札幌に近い。だからこそ、小樽について知る機会を多くして地域とふるさと小樽への意識を高め、理解を深められるように取り組んでいる。6年生では小樽の産業の一つである「ガラス制作体験」、3・4年生で小樽市街を海から眺める体験「屋形船乗船」、小樽の代表的な祭りにおける踊りの指導者を招聘して、「潮音頭」を全校児童で踊るなど、多様な体験活動を行っている。

そのほか、博物館見学を通して、小樽の地形や自然、歴史を学ぶなどの機会を持っている。



ガラス制作体験

3 おわりに

本校では、多くの活動を経験し様々なことに触れる中で、一人一人の児童の主体的・意欲的な姿を引き出したいと上記のような取組を続けてきた。しかし、「WITH コロナ」の新しい学校生活では活動が制限されている。これまで同様の活動に固執することなく、児童にとって何が必要なことかを考え、地域の方々とも協力しながら教育活動を工夫していくことの大切さと難しさを痛感している。